

野菜の需給・価格動向レポート(平成30年12月3日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	10月の価格情報		11月の価格情報			11月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	12月の主産地	生育及び価格の12月中旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額					
		下旬		上旬	中旬				
葉茎菜類	キャベツ	77.90	89	72.93	92	69	・8,071t (111%)	愛知(49)、千葉(27)	愛知産及び千葉産は、台風24号の影響により一部に塩害が発生していたものの、その後の好天により生育は回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 愛知産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		88.91	101	76.91	104	72	・1,890t (90%)	愛知(49)、茨城(16)	
	たまねぎ	81.54	89	81.54	93	95	・6,801t (88%)	北海道(95)	北海道産は、収穫作業が終了し、貯蔵ものの計画的な出荷となっている中で、傷みが発生したことにより商品化率が低下したことから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		81.54	96	81.54	96	96	・3,178t (102%)	北海道(84)	
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	136.25	325	136.25	323	269	・2,409t (98%)	千葉(25)、茨城(17)、埼玉(16)	千葉県は、夏場の高温・少雨や台風24号の影響で一部が生育不良であることから、現在の出荷は平年を下回っているものの、最近の好天により生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。茨城産は、台風24号の影響により倒伏や折損により正品率が下がっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。埼玉産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		467.01	749	467.01	598	495	・145t (88%)	徳島(20)、香川(14)、奈良(14)	
	はくさい	86.06	79	42.34	66	43	・6,602t (118%)	茨城(96)	茨城産は、台風24号の影響により生育が遅延していたものの、その後の好天により生育は回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		88.72	86	55.95	75	58	・1,578t (127%)	茨城(56)、和歌山(7)、熊本(6)	
	ほうれんそう	423.62	565	423.62	429	303	・1,085t (152%)	群馬(37)、茨城(32)	群馬産及び茨城産は、天候に恵まれて生育が前進していることから、現在の出荷は平年を上回っているものの、最近の気温の低下に伴い生育の前進傾向が緩むことから、今後は平年並みの出荷の見込み。 群馬産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、今後は平均並みで推移する見込み。
		507.91	712	507.91	550	457	・345t (109%)	福岡(34)、徳島(22)、岐阜(15)	
	レタス(結球)	158.27	167	143.63	153	121	・3,589t (114%)	静岡(32)、茨城(19)、長崎(14)	静岡県は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれて生育が前進していることから、現在の出荷は平年を上回っているものの、生育の前進により切り上がりが増えることから、今後は平年を下回る出荷の見込み。長崎産は、天候に恵まれて生育が前進していることから、現在の出荷は平年を上回っているものの、最近の気温の低下に伴い生育の前進傾向が緩むことから、今後は平年並みの出荷の見込み。
		152.57	182	154.61	177	129	・1,245t (131%)	兵庫(36)、長崎(32)	
果菜類	きゅうり	289.03	412	289.03	327	289	・2,923t (102%)	宮崎(35)、千葉(20)、埼玉(16)	宮崎産、千葉産及び埼玉産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 10月下旬から出荷量が増加し値を下げた現在平均並みの価格は、宮崎産、千葉産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、12月から平均価格が上がることから、今後は平均を下回って推移する見込み。
		298.96	426	298.96	332	263	・890t (101%)	宮崎(39)、高知(22)、佐賀(10)	
	トマト(大玉)	364.78	460	364.78	474	407	・2,853t (94%)	熊本(41)、愛知(17)、栃木(15)	熊本産、愛知産及び栃木産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 11月中旬から出荷量が増加し値を下げた現在平均並みの価格は、12月から平均価格が上がる中、熊本産、愛知産及び栃木産の出荷が平年並みと見込まれることから、引き続き平均並みで推移する見込み。
		371.67	469	371.67	492	410	・969t (92%)	熊本(74)	
	なす	301.00	398	301.00	367	331	・1,063t (127%)	高知(84)	高知産は、最近の気温の低下に伴い生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 気温の低下に伴い出荷量が減少して現在平均を上回っている価格は、高知産の出荷が平年を下回ると見込まれるものの、12月から平均価格が上がることから、今後は平均を下回って推移する見込み。
		263.21	422	263.21	382	341	・397t (116%)	高知(40)、熊本(26)	
ピーマン	276.76	537	378.83	513	403	・981t (118%)	宮崎(40)、茨城(27)	宮崎産及び茨城産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 11月に入り出荷量が増加し値を下げた現在平均並みの価格は、宮崎産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、引き続き平均並みで推移する見込み。	
	296.27	578	371.29	500	359	・558t (163%)	宮崎(33)、鹿児島(30)、高知(19)		
根菜類	だいこん	67.55	89	67.55	70	51	・6,154t (122%)	千葉(50)、神奈川(41)	千葉県及び神奈川産は、台風24号の影響により生育が遅延していたものの、その後の好天により肥大が進んでいることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 千葉県及び神奈川産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		76.48	104	76.48	85	57	・3,126t (146%)	長崎(30)、和歌山(24)、鹿児島(24)	
	にんじん	123.08	201	105.86	208	170	・3,439t (100%)	千葉(82)	千葉県は、台風24号の影響により生育が遅延していたことから、現在の出荷は平年を下回るものの、その後の好天により生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 11月に入り出荷量が増加し徐々に値を下げた現在平均に近い価格は、千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。
		123.11	207	104.49	209	149	・1,560t (115%)	長崎(60)、鹿児島(17)	

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)であり、保証基準額の算定の基となる価格であることから、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価額は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
URL : https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	10月の価格情報		11月の価格情報			11月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	12月の主産地	生育及び価格の12月中旬までの見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格					
				上旬	中旬				
いも類	さといも	232.02	273	232.02	247	241	・469t (88%)	埼玉(58)、千葉(17)	生育及び価格の12月中旬までの見通し
		(118%)	(106%)	(104%)	埼玉産及び千葉産は、夏場の高温・少雨や9月の曇雨天の影響から一部に病害が発生していたものの、その後の好天により回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 埼玉産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。				
	ばれいしょ	228.44	280	228.44		278	287	・145t (88%)	愛媛(50)、福井(21)
		(123%)	(122%)	(126%)	北海道産は、収穫作業が終了し、貯蔵ものの計画的な出荷となっている。6月下旬以降の長雨・日照不足や7月中旬以降の高温・少雨の影響により一部が小玉傾向となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。				
92.33	107	92.33	109	113		・2,921t (87%)	北海道(80)	生育及び価格の12月中旬までの見通し	
	(116%)	(118%)	(122%)						
92.33	104	92.33	105	108	・1,270t (102%)	長崎(54)、北海道(46)	生育及び価格の12月中旬までの見通し		
	(113%)	(114%)	(117%)						

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)であり、保証基準額の算定の基となる価格であることから、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	10月の価格情報		11月の価格情報			11月中旬の東京及び大阪市場の入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	12月の主産地	生育及び価格の12月中旬までの見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別平均価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別平均価格					
				上旬	中旬				
洋菜類	ブロッコリー	286.55	455	286.55	371	299	・924t (120%)	埼玉(22)、愛知(21)、群馬(17)	生育及び価格の12月中旬までの見通し
		(159%)	(129%)	(104%)	埼玉産及び群馬産は、現在の出荷は平年並みであるものの、最近の気温の低下に伴って生育は遅延していることから、今後は平年を下回る出荷の見込み。愛知産は、台風24号の影響で根傷みが発生している中、最近の気温の低下に伴って生育が遅延していることに加え、一部に病害も発生していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 埼玉産、愛知産及び群馬産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。				
357.11	517	357.11	469	341		・221t (106%)	徳島(30)、北海道(17)、鳥取(12)	生育及び価格の12月中旬までの見通し	
(145%)	(131%)	(95%)							

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成25～29年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

2 野菜の輸出入動向 - 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について -

〇輸入について

貿易統計によると、平成30年10月の生鮮野菜の輸入量は、7万トン(前年同月比140%)となった。また、加工野菜は、17万4千トン(同116%)であり、野菜全体では、24万4千トン(同122%)となった。このうち、中国産の輸入数量は合計で13万7千トン(同124%)と輸入量の56%を占めた。
10月の生鮮野菜の輸入量は、6月下旬以降の長雨・日照不足や、7月中旬以降の高温・少雨の影響による国産野菜の出荷量減少で高値が継続していたことから前年を上回った。
当月における品目別の動向をみると、生鮮野菜で輸入量が第1位のたまねぎは2万5千トン(同132%)、第2位のにんじんは1万トン(同174%)、第3位のねぎは6千トン(同145%)となった。
本年は、北海道を主産地とする品目(にんじん、ねぎ等)において、天候不順により出荷量が減少し、また、当初大きな影響はないと思われたたまねぎ等についても、ここに来て出荷量の下方修正がされて高値になり、輸入量が増加している。
ただし全体的な動きとしては、秋以降の温暖な気候により生育が順調である品目が多く、価格が下がり始めてきていることから、今後の輸入量は注視が必要である。

〇輸出について

10月の輸出量は、生鮮野菜は2,075トン(同31%)、加工野菜は1,614トン(同115%)となり、野菜全体では3,688トン(同46%)と大幅減少した。これは国内における天候不順による出荷量の減少で、野菜の高騰が継続していたことが要因である。
当月における品目別の動向をみると、生鮮野菜で輸出量が第1位のたまねぎ及びジャロットは、1,114トン(同20%)となった。たまねぎについては、輸入における記述のとおり、北海道産の不作が大きく影響をしている。一方、第2位のながいもは、513トン(同180%)となっており引き続き台湾や米国における薬膳食材としての需要が強いと思われる。

野菜の輸入数量

野菜全体の輸入量(平成30年10月)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年同月比	前年比	前年同月比	前年比	前年同月比	前年比
生鮮野菜	72,170	113	50,055	69	69,856	140
加工野菜	142,692	101	150,146	105	173,697	116
野菜合計	214,862	105	200,201	93	243,552	122
うち中国産野菜合計	120,530	100	110,671	92	137,261	124
中国産シェア	56		55		56	

主な生鮮野菜の輸入先(平成30年10月)

品目	輸入合計						
	前年同月比	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	25,406	132	中国	24,294	アメリカ	1,112	-
にんじん	9,764	174	中国	9,479	オーストラリア	259	アメリカ
ねぎ	6,404	145	中国	6,404	-	-	-
ごぼう	5,455	130	中国	5,419	台湾	36	-
ジャンボピーマン	2,784	100	韓国	1,229	オランダ	1,219	ニュージーランド
キャベツ	2,254	213	中国	2,244	アメリカ	10	-
かぼちゃ	2,002	98	ニュージーランド(他)	1,901	韓国	41	メキシコ
にんにく	1,823	120	中国	1,627	スペイン	176	アメリカ

同(平成29年10月)

品目	輸入合計						
	前年同月比	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	19,227	中国	18,938	アメリカ	237	ニュージーランド	
にんじん	5,616	中国	5,505	オーストラリア	98	アメリカ	
ねぎ	4,404	中国	4,404	-	-	-	
ごぼう	4,185	中国	4,150	台湾	36	-	
ジャンボピーマン	2,798	韓国	1,575	オランダ	954	ニュージーランド	
かぼちゃ	2,049	ニュージーランド(他)	1,995	トンガ	24	アメリカ	
アスパラガス	1,524	オーストラリア	1,375	メキシコ	119	タイ	
にんにく	1,517	中国	1,412	スペイン	95	アメリカ	

野菜の輸出数量

野菜全体の輸出量(平成30年10月)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年同月比	前年比	前年同月比	前年比	前年同月比	前年比
生鮮野菜	2,159	48	6,604	306	2,075	31
加工野菜	1,103	104	1,405	127	1,614	115
野菜合計	3,261	59	8,009	246	3,688	46

主な生鮮野菜の輸出先(平成30年10月)

品目	輸出合計						
	前年同月比	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ及びジャロット	1,114	台湾	1,015	ロシア	50	シンガポール	
ながいも	513	台湾	229	アメリカ	222	シンガポール	
にんじん及びかぶ	101	台湾	99	香港	2	-	

同(平成29年10月)

品目	輸出合計						
	前年同月比	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ及びジャロット	5,632	台湾	3,613	韓国	1,932	オランダ	
ながいも	286	台湾	137	アメリカ	113	シンガポール	
かぼちゃ	223	韓国	156	香港	63	シンガポール	

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)
※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。
※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 斎藤、山田、長島 TEL03-3583-9793、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
※無断転載禁ず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。